

こずっち会議@増尾地域（報告）

■ 日 時 令和元年12月8日（日）午後1時から午後3時

■ 場 所 増尾近隣センター 会議室A

■ 出席者 増尾地域ふるさと協議会 10名
増尾地域に住む若い世代 10名

■ 趣 旨

平成30年度に柏市と各地域のふるさと協議会で、地域課題の検討を行なう「地域懇談会」を行ないました。この懇談会の中では、高齢化が進み、子どもの取り巻く環境も変化している現在、地域はもっと若い世代との連携が必要であるとの意見が多くありました。

事前に学校の御協力により、増尾地域の小中学校の保護者へアンケートを行なったところ、日頃から地域のために活動をしてきている「ふるさと協議会」の認知度が低かったことも分かりました。また、ふるさと協議会も、若い世代の生の声を聞いてみたいとのことから、お互いを知り合うことを目的にまずは、「子どもが住みよい地域にするには」をテーマに、意見交換を行なったものです。

こずっち会議（増尾地域）報告書

Aグループ



■ 主な意見

子どもたちが喜んで活動

- ・ シチューを食べた。まっくろくろすけを作った。盛りつけ方は子どもの自由。
- ・ 「作ってあそぼう」小学生対象・ふるさと協議会主催（ちょっと親が少なかった…）
- ・ つちのこ，ますのこ。
- ・ 通学路・学校は安心して送り出せる。近隣センターはハードル高い。
- ・ おばけ屋敷。
- ・ どんなコラボができるか。ふるさと協議会・青少協・社会福祉協議会・学校など情報交換できる場ほしい。
- ・ 親子で参加する行事→つながりができてよい。
- ・ 自分は参加せず「子どもを預けたい」という人もいる。
- ・ 子どもの学校以外の顔見ることができる。
- ・ おばけ屋敷は子どもがスタッフ。とても人気がある。
- ・ 学校の先生もおばけになってくれた。（学校も参加）

行事等の情報発信

- ・ 「行事に応募する」ということは少し勇気がいる。
- ・ 学校経由での案内は見るし安心感ある。
- ・ G mail の利用，チラシについている申込用紙で参加申し込み。
- ・ シニア向け行事→チラシでの申し込みが多い。
子ども，若い世代向け行事→G mail での申し込みが多い。
- ・ 掲示板に掲示されていないところある。回覧板は回るの遅くなったりするので，掲示板活用したいが，なかなか行き届かない。

行事のコラボレーションについて

- ・ 行事の主催がどこなのか→参加側は気にしてない。
- ・ 各事業で独立したイベントコラボした方が良いのと思う。

- ・三世代が関われる行事を増やしたい。
- ・若い世代の方々の考えが反映できるようにしていきたい。
- ・学区とのエリアの違いがあり，難しい部分がある。

子どもたちにとって，もっと良い地域にするためには？

- ・子どももスタッフとして参加する。（学年問わず参加してくれる）
- ・子どもも（おばけ屋敷）自分の役割があると喜んでくれる。
→行事ごとにどこなら子どもが任えるか考えるといいと思う。
- ・学校が活動の場。

■ つちのこ・ますのこ

<https://sites.google.com/site/masuofk/>

こずっち会議（増尾地域）報告書

Bグループ



■ 主な意見

増尾地域の特徴

- ・ つちのこは子どもたちからの反響も大きい（楽しんでいる）。
- ・ 増尾はあたたかいまち。
- ・ つちのこがあって良かった。
- ・ 増尾ふる協はパワフル！増尾は学校と地域のつながりはある。
- ・ 増尾地域はふるさと協議会が頑張っているので安心できる。感謝している。
- ・ いろいろな人と出会ってくると親もおおらかになっていく。
- ・ ふるさと協議会には感謝しかない。子どものために環境を整えられると良い。
- ・ ふるさと協議会のことを理解してくれていてよかった。

参加の仕方

- ・ ポイントで構わないのでお手伝いできるようなことを考えている。
- ・ 共稼ぎが増えてきて役員が出来づらい環境になった。
- ・ 学校の中で地域のことを良く思っていない人もいるが、情報の共有をしながら参加者が増えると良い。
- ・ 忙しいけど、地域でつながっていけるのは楽しい。
- ・ 忙しい父母はどうやったら楽しんでもらえるか。
- ・ 学校が地域に協力する姿勢も必要。
- ・ 1時間でもいいからお手伝いできるような体制にする（シフト制）
- ・ 今日参加していないお母さんたちにも地域のことをもっと知ってもらいたい。
- ・ 参加したいけれど、働いているお母さんには厳しい現状がある。
- ・ 子育て世代が自分の想像以上に地域のことを考えてくれていることを知った。
- ・ できるときにできることをできれば。
- ・ 子どものためだけ、大人の負担感が先行してしまうとあまり良くない。

公園

- ・公園が危険な場所になりつつある。
- ・大きな広場が各地域にあるとよい。
- ・公園に遊具がない。ボール遊びもできない。
- ・公園が減ってしまった。
- ・小さい子が遊べるところとボール遊びができるところがあるとよい（金網で囲ってある）。

情報の共有

- ・きつね山をみんなが集まれる場所にしようと計画中。
- ・親を不安にさせるような情報がたくさんある。
- ・いろいろな人がもっとかかわれるようになるとよい。
- ・子どもも忙しい。
- ・子どもがチラシを作ったら回覧板をみってくれるかも。
- ・情報の共有が難しいそれぞれの部から依頼，話ぐる。
- ・さつま芋堀りとかは子どもがやりたいと思っている。
- ・ふるさと協議会の広報紙が報告ばかりになっている。
- ・町会，自治会と子ども会との関わりが少なくなっている。
- ・回覧板はあまり見られていない？
- ・PTA活動も地域活動。

イベントについて

- ・お母さんたちが参加しやすいように組織のスリム化も大切。
- ・たくさんある団体（ふるさと協議会，青少協など）の縦割りがなくなると良い。
- ・同じようなイベントが重なっているときがある→一緒にしてもよいかも。
- ・イベントをまとめられると，より盛大に開催できる。
- ・中学校でまとめてイベントを開催できるとよい。
- ・親がたのしめれば，子どもも楽しめる。

こずっち会議（増尾地域）報告書

Cグループ

■ 主な意見

増尾ってどんなところ？

- ・昔から地元として住んでいる方が多い。
- ・子供の遊び方は昔から変わってきた。
- ・地域の方々のつながりが強い！
- ・自然が多くて良い！ホテルも出るよ！
- ・土小や土中など「土」という名称に愛着を持っている？（笑）
- ・引越してくる人も、元々近くに住んでいた人が多い。
→つながりやすい。



ふるさと協議会へのイメージ

- ・小学校の手紙でふるさと協議会を知った。
- ・幅広すぎて何をやっている団体なのかわからない。
- ・回覧板の中身がよく分からないことが多い。
- ・どんな組織かわからない。母体は？規模は？場所は？
- ・100人も役員がいるんだ！！
- ・スタンプカードでふるさと協議会を知った。（増尾独自）
- ・エンジョイパトロールの方がメンバーが少なくて困った。
→何か良い方法はないか。

ふるさと協議会で活動してみても

- ・近所のスーパーで必ず誰かに会う。→話せる！
- ・負担を軽く！テントを軽いものにしたたり，短時間で手伝ったり
- ・どんなお手伝い。参加でも大丈夫。
- ・やっぱり若い人にはもっと出てきてほしい。→できることから！
- ・中学校の生徒に手伝ってもらっている！
→知らない間に子どもがお世話になってる（笑）
- ・子供との関わり方が難しいことがある。（あいさつ，怒るときとか）
- ・子供との遊びで疲れてしまうこともある。

- ・自分が「若い世代」なのか不安だった。
- ・他の地域の方々や交流都市の方々とも意見交換してみたい。
→新しいアイデアを得られたり，知り合いが増えたり。

子どもに対してできること

- ・地域活動するから税金が少し安くなるとか（会社も協力して！）。
- ・先生は移っていくけど地域の大人はずっと見守っていける。
- ・仕事を30分早く帰って，パトロールするとかしないと！
- ・子育ては大変→終わってから少しずつ関わっていってもらえれば。
- ・色んな子供いる→先生も忙しそう。
- ・送り迎えを自分たちでやるのも大変。

こずっち会議（増尾地域）報告書

Dグループ

■ 主な意見

若い世代へ

- ・ 地域活動を若い世代に入っていただく。
- ・ つちのこで若い世代の話しを聞く。
- ・ 青年団のような組織ができれば良い。
- ・ できる時期，できない時期がある。入りやすい環境が大事。
- ・ みんなで少しづつ手伝う（代わりがきく）



未就園児の親

- ・ ベビーマッサージ
- ・ はじめの一步
- ・ サロン活動
- ・ 「0歳の集い」の数が少ない。月1回はほしい。
- ・ 幼稚園，保育園など学校に入る前の情報が少ない

見守り，安心感

- ・ 増尾見守り活動。安全パトロール。保護者のコミュニケーション。
- ・ エンジョイパトロール，子どももいると安心感。
- ・ 土小学校，年1回歩いてまわる。3～4人でパトロール。

多世代交流

- ・ 子どもに挨拶。顔が見える関係。
- ・ つちのこのイベントが土曜日なのは行きやすい。
- ・ 家族の時間も大事。
- ・ 三世代の親との交流。
- ・ なかのこ（中原小）なんてあったらどうか。

祭り

- ・ 祭りなど，多世代ができるイベント。
- ・ 祭りの踊り手，教えてほしい。

- ・ ますお踊り。
- ・ 昔は模擬店を出店していた。

地域，学校

- ・ 地域と小学校と中学校で連携が必要。
- ・ 地域と密着した土中学校に。
- ・ 学校の協力体制が必要。
- ・ 柏南高校では音楽で交流をしている。

秋津コミュニティの事例

- ・ 三世代が集える場づくり。
- ・ 地域の行事（文化祭）を中学校と一緒にやっている。

やってほしいこと

- ・ 親が教えられないもの。
- ・ 他学年との交流イベント，遊び。
- ・ 楽しいことがいい。
- ・ 大人がやっている子どもがついていく。

■ 秋津ホームページ（千葉県習志野市）

<http://www.akitsu.info/index.htm>

こずっち会議 @ 増尾地域

当日の様子

